

第1回 CISPR 小委員会 議事要録

1. 開催日時:平成 28 年 9 月 23 日(金) 15:00~16:30

2. 開催場所:(一財)VCCI 協会 5 階 A+B 会議室

3. 出席者:(順不同、敬称略) 計 32 名

<委員等>

徳田委員長<東京大学大学院>

水口委員<日本放送協会>

野本委員<超音波工業会/高周波機械工業会>

中森委員<一般社団法人 電子情報技術産業協会>

平伴委員<一般社団法人 日本照明工業会>

前川委員<一般社団法人 日本電機工業会>

大浦委員<一般社団法人 日本ホームヘルス機器協会>

川脇委員<一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会>

正岡委員<一般社団法人 KEC関西電子工業振興センター>

梶原委員<一般財団法人 日本品質保証機構>

山下副委員長<一般財団法人 電気安全環境研究所>

諸田委員<一般社団法人 インターホン工業会>

相川委員<電気事業連合会>

大澤委員<一般社団法人 日本アミューズメントマシン協会>

安田委員<一般社団法人 日本自動販売機工業会>

高岡委員<一般社団法人 日本配線システム工業会>

土屋委員<一般社団法人 日本陸用内燃機関協会>

星 委員<一般財団法人 V C C I 協会>

三塚委員<一般財団法人 テレコムエンジニアリングセンター>

山下委員<株式会社 UL J a p a n>

<参加>

経済産業省製品安全課 遠藤課長補佐

総務省電波環境課 柴田係長

義経<独立行政法人 製品評価技術基盤機構>

中野<一般社団法人 日本電機工業会>

古川<一般社団法人 日本電気協会>

小田<一般財団法人 V C C I 協会>

島先<一般財団法人 V C C I 協会>

宮川<独立行政法人 製品評価技術基盤機構>

井上<一般財団法人 電気安全環境研究所>

長部<一般財団法人 V C C I 協会>

<事務局>

鶴見, 村松(記)<(一財) V C C I 協会>

<欠席> 計4名

加藤委員<一般財団法人 電波技術協会>

上野委員<地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター>

総務省電波環境課 谷口電波監視官

石関委員<一般財団法人 日本冷凍空調工業会>

4. 配付資料

資料 1 ; 整合規格案作成方針

資料 2-1 ; J55011(H27)国際規格との対比表(告示の日付を除き完了)+答申との差分

資料 2-2 ; J55011 規格

資料 2-3 ; CISPR 11 国内答申

資料 3-1 ; J55014-1_国際規格との比較_120613+答申との差異

資料 3-2 ; J55014-1 規格

- 資料 3-3 ; CISPR 14-1 国内答申
資料 4-1 ; CISPR 15 WG メンバーリスト 平伴第一次案 160916
資料 4-2 ; 整合規格案作成 CISPR 15 WG スケジュール案 160921
資料 4-3 ; CISPR 15 国内答申
資料 5-1 ; CISPR 32 WG メンバーリスト案
資料 5-2 ; 整合規格案作成 CISPR 32 WG スケジュール案
資料 5-3 ; CISPR 32 国内答申
資料 6 ; CISPR 小委員会名称について
資料 7 ; CISPR 小委員会規約_20160830 制定
資料 8 ; CISPR 小委員会 委員名簿 20160902

5. 議事概要

5-1:開会

本日の出席委員数について事務局より報告があり、委員総数 23 名に対し、20 名出席であり、CISPR 小委員会 規約第 9 条に定める全委員数の 2/3 以上の出席を充足しており、本委員会は成立していることが確認され議事を進めた。

5-2:徳田委員長の挨拶

- ・徳田委員長挨拶の後、委員長が議長となり、審議に入った。

5-3:整合規格案作成方針について(資料 1)

- ・事務局より、資料に基づき説明が行われた。これに対し以下の質問があった。
 - ア、情報通信審議会答申（以下答申とする）の技術的内容の変更を加えることなく活用とあるが、変更は出来ないのか。また、様式・作成方法は JIS Z 8301 準拠とあるが、答申をそのまま活用した方が効率的ではないか。
 - 本質問に対する回答は、5-4項 J55011/J55014-1 整合規格作成例についての紹介にて行うとの説明があった。

5-4:J55011/J55014-1 整合規格作成例についての紹介(資料 2-1、2-2、2-3、3-1、3-2、3-3)

- ・山下副委員長より、J55011(H27)及び J55014-1(H27)の整合規格作成例について、説明がなされた。前項での整合規格案作成方針についての質問に対する回答として、以下の内容が確認された。
 - ア、作成方針として答申の技術的内容の変更を加えることなく活用することについて、理解され承認された。
 - イ、様式・作成方法としての JIS Z 8301 準拠については、JIS Z 8301 に従う。答申の内容と様式が余りにも違う場合は常識の範囲内で答申を活用し、文言は答申の内容とすることが説明され了解された。
- ・この他、以下の質問があり、説明後了解された。
 - ア、J 規格のメンテナンスは、委員会として行うのか？
 - 過去においては、答申がされた後、要望があれば作成している。

イ. CISPR 16-1-1、CISPR 16-1-4 の答申が行われた場合、整合規格とどのように関わってくるのか？
→国際規格と答申では引用している版が違っているため、考慮が必要かもしれない。CISPR 15 WG
及び CISPR 32 WG において検討することになる。

5-4: CISPR 15 WG について(資料 4-1、4-2、4-3)

- ・平伴委員より、CISPR 15 WG メンバーリスト案及びスケジュール案について説明がなされ、審議の結果、承認された。

5-5: CISPR 32 WG について(資料 5-1、5-2、5-3)

- ・事務局より、CISPR 32 WGメンバーリスト案及びスケジュール案について説明を行った。審議の結果、参加メンバーには、山下副委員長、正岡委員、梶原委員が追加となった。

経済産業省より、規格作成後に、検討に参加していない工業界が規格の変更を求めることがないよう、関係のある工業界には幅広く声をかけておく必要がある、との指摘があった。これに対して、事務局より、総務省の電波利用環境委員会 I作業班の答申作成時の工業界関係委員のうち、CIAJ以外の団体からは参加者がおり、CIAJにも今後声をかける予定、と回答があった。また、現在のWG参加団体以外のCISPR小委員会(仮)の団体からは参加表明がないことが確認された。

- ・スケジュール案については、承認された。

5-6: CISPR 小委員会名称について(資料 6)

- ・事務局より、資料に基づき説明を行った。審議の結果、委員会名称、規格名について以下の意見が出され、今回提案のあった案を事務局で整理し、第 2 回 CISPR 小委員会で審議する事となった。

- －電波利用環境委員会 CISPR 委員会と同様な名称であり、紛らわしいので変更して頂けるとよい。

- －海外からも分かりやすい規格名がよい。

- －委員会名称は規格名と同じにするとよい。

- －J 規格を提案する委員会であり、CISPRJ 小委員会又は J-CISPR 小委員会がよい。

- －J 規格を作成・提案するのではなく、基本は民間規格を作成する。

- －J 規格は国が作る整理番号であり、これから参照する規格が例えば VCCI 規格となる。

- －CISPR 32 については、VCCI 規格を提案しようとしている。規格名について、一律同じにする必要はないのでは。

- －工業会としては、それぞれ別の規格名ではなく、統一した規格番号としたい。

- －電波雑音小委員会がよい。

- －現状の CISPR 小委員会がよい。

5-7: 報告事項、その他

- ・議事録については、第 1 回 CISPR 小委員会より発行する。

- ・資料の事前配布については、CISPR 小委員会専用の資料格納フォルダを利用する。

- －資料フォルダについては、後日、委員・参加各位に事務局より連絡するとの説明がされた。

- ・次回開催日について検討し、以下の日程にて決定した。

- －開催日時:平成 28 年 12 月 13 日(火) 15:00~17:00

－開催場所:(一財)VCCI 協会 5階 A+B 会議室

5-8:閉会

以上で、本日の審議を終了し、散会した。

－以 上－